

日本初の普通切手

明治4年 明治新政府発行

未使用良品

『竜文切手48文』

限定10

竜文切手はなぜ48文という区切りの悪い額面なのか?
この48文という不思議な額面は戦国時代から続く「九六勘定」の慣習に基づくとされます。これは、銅銭48枚を持って銭50文とみなした江戸時代のままの通貨単位が取られていたためです。また、区切りの良い50文にしなかった理由として、当時は文明開化による経済成長の影響で銅銭の需要が急激に高まっていて、その不足分を少しでも補うために、2文減らす措置が取られました。

複製する技術がなく、同じ龍の図案を40回手で彫り上げたため、模様は微妙な違いが認められるのも特徴です。切手の印面は19.5mmの正方形であり、日本の切手の中では最小サイズです。手彫り切手で唯一の2色刷りであり、現代の切手では一般的な国名表記のほか、目打(切手周囲の連続した小穴)や裏のりもありませんでした。この度ご紹介している「竜文切手48文」を当時使用した場合、東京から横浜間に1(切手375)までの書状を届けることができたのです。

手愛好家の方はもちろん、切手を収集する上でぜひとも入手したい150年前の切手。未使用良品という貴重品をお届けする、またない好機をお見逃ししないようお願いします。限定10



擦れや汚れから守る保護用ケース入り

手彫りの竜文が美しい日本最小の切手
日本で近代的な郵便制度が発足したのは明治4年のこと。これより以前は飛脚が足で郵便物を運んでいたため、料金が極めて高く、利用する者は大名や豪商などに限られていました。そこで、明治新政府は交通と通信を司る郵便士に、前島密を登用。安価で迅速な郵便制度の確立を目指したのです。この時、普通切手の第一号として採用されたのが「竜文切手」でした。

雷紋と七宝の輪郭文の中に、向かい合った龍が描かれていることから「竜文切手」と名付けられた本品。図案を手掛けたのは、日本初の全国通用紙幣を担当したことも知られる銅板彫刻師の松田緑山でした。もともと、前島の原案では梅花模様で周りを囲った図柄でしたが、偽造されやすいとの理由により改められたのです。

複製する技術がなく、同じ龍の図案を40回手で彫り上げたため、模様は微妙な違いが認められるのも特徴です。切手の印面は19.5mmの正方形であり、日本の切手の中では最小サイズです。手彫り切手で唯一の2色刷りであり、現代の切手では一般的な国名表記のほか、目打(切手周囲の連続した小穴)や裏のりもありませんでした。この度ご紹介している「竜文切手48文」を当時使用した場合、東京から横浜間に1(切手375)までの書状を届けることができたのです。



日本郵便切手商協同組合鑑定書付き

郵便事業の発足とともに発行された、日本切手の第一号！
今や稀少となった未使用良品を驚きの価格でお届けします。



■収録:竜文切手1枚 ■寸法(約):[切手]縦22×横23mm[ケース]縦9.7×横7.2×厚さ1.4cm ■保護用ケース入り
■発行年:明治4年(1871年)4月 ■日本郵便切手商協同組合鑑定書付き ■限定10

郵便制度 150周年 記念特集

日本を近代化へと推し進めた郵便制度の始まりから150年。歴史的な節目の今こそ手にしたい、垂涎のコレクションをお届けします。

飛脚から郵便へ、近代化を象徴する逸品「趣味の王様」として、今なお絶大な人気を誇る切手。その始まりは日本の郵便制度が発足した150年前まで遡ります。郵便の父と呼ばれ、1円切手の肖像としておなじみの前島密がイギリスに倣い近代郵便制度を導入したのは、明治4年(1871)のことでした。時を同じくして日本初の切手「竜文切手」も誕生。ここに新たな郵便制度が確立され、日本の郵便事業は急速に発展を遂げていきます。それを如実に物語るのが、飛脚から置き換わった郵便物の運送です。郵便はこれまで郵便物運送ではなく、国営に切り替わり、料金前納の証として切手(切符)の形が用いられたこと、国営化により飛脚と比べて安価になったこと、書状集メ箱(郵便ポスト)を設置し、いつでも手紙を送れるようになる等の大改革が行われました。創業時は東京と大阪間のみでしたが、翌年の明治5年(1872)には郵便制度を全国に拡大。これにより飛脚が江戸から大阪間を6日〜8日かけて輸送していたものが、わずか3日で配達されるようになった。以降、鉄道網が発達することによって、郵便物を列車に乗せて運送するようになり、さらに迅速化してきます。今ではポストに入れた手紙が、明日には届けられるという郵便輸送の礎が築かれたのです。二〇二二年は日本郵便制度がはじまり、日本初の切手が誕生してから150年。そこで、この度は日本初の普通切手第一号である「竜文切手」の未使用良品と、この歴史的節目を祝して造幣局より発行された「一万円金貨・千円カラー銀貨セット」を限定数で用意しました。ぜひこの機会に入手いただき、格別な所蔵価値をご実感ください。

造幣局発行 完全未使用品 プルーフ仕上げ

『郵便制度150周年記念 一万円金貨・千円銀貨セット』

郵便制度150年という歴史を讃えるかのごとく威光を放つ記念貨幣。金貨の当選倍率が11.44倍まで及んだ市場では入手困難な逸品です。 限定10

資産価値も格別な未使用品を限定数確保!
二〇二二年は日本郵便制度が発足してから150年という節目にあたり、これを記念して造幣局より発行されたのが、郵便制度150周年記念「一万円金貨・千円カラー銀貨」です。

一万円金貨 純金 15.6g
■素材:金1000 ■寸法(約):径2.6cm、重量15.6g ■特製ホルログラムケース入り ■発行枚数:2万枚

千円カラー銀貨 銀 31.1g
■素材:銀925 ■寸法:径4.0cm、重量31.1g ■発行枚数:5万枚

京と大阪間を78時間で届けたといわれます。カラー銀貨に施されたのは、郵便差出箱(号丸型)のポスト。昭和24年から実用化され、丸型ポストとしておなじみでお世話になった方も多しはす。心を込めて作られた手紙とともに懐かしさが込み上げます。

【裏面】昭和6年(1931年)に完成した東京・丸の内にある旧東京中央郵便局入口(共通)

【表面】我が国初のポストである書状集メ箱と郵便物搭載作業風景

一万円金貨
造幣局オリジナルケースに納めてお届けします

千円銀貨
造幣局オリジナルケースに納めてお届けします

【裏面】

頒布価格(税込)
『竜文切手48文』月々 9,860円×12回(計118,320円) 一括 110,000円
郵便制度150周年記念 一万円金貨・千円銀貨セット 月々 15,829円×24回(計379,896円) 一括 330,000円
芸術と文化の殿堂 100周年 竜文切手の風合いや金銀貨の色彩のご確認はこちら 東京書芸館 検索
〒140-8536 東京都品川区南大井3-28-10

お申込み方法 ハガキ・FAX・ネットまたはお電話で、お申し込みください。
お届けは受注から約2〜10週間後。発送手数料は一点につき660円(税込)。一括払はクレジットカードもしくは代金引換(代引手数料弊社負担)。分割払はクレジットカードのみで、分割金額につきましては各クレジット会社様の規定に準じます。現品到着後8日以内なら瑕疵なき限り、送料自己負担でご返品可。当社基準により、ご希望のお支払い方法にそいかわる場合がございます。※当社個人情報取扱いに関する内容はお客様窓口へお問い合わせください。
お申し込み専用ダイヤル 03-3762-7609 フリーダイヤル 0120-807-577

切手郵便はがき
〒140-8536 東京書芸館
お申し込み専用ダイヤル
①ご希望の商品
②〒住所
③氏名(フリガナ)
④生年月日
⑤電話番号
⑥支払方法(一括/月々)
⑦●●係